

(参考)

## 1 愛知県のトラフグについて

愛知県産トラフグは、渥美外海ではえ縄漁業で大型のトラフグが漁獲されるほか、伊勢湾や三河湾などの内湾でも底びき網漁業で漁獲されます。はえ縄漁業で漁獲されたトラフグは、主に南知多町で水揚げされており、愛知県は全国3位のトラフグ産地となっています（水産研究・教育機構 水産資源研究所調べ）。

表 愛知県のトラフグ漁獲量の推移

|           | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|
| 県内漁獲量 (t) | 57    | 69    | 39    | 42    |

## 2 ふぐはえ縄漁業

長いロープにたくさんの釣り針をつけてトラフグを釣る漁法で、県内のトラフグ漁獲量の6割程度を占めます。操業する漁船のほとんどは南知多町の篠島、日間賀島にあります。

- 操業隻数：50 隻前後（2019 年度）
- 操業期間：10 月～2 月
- 主な漁場：渥美外海（遠州灘）

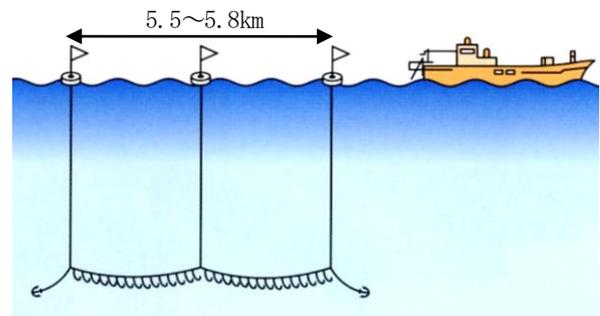


図 ふぐはえ縄模式図

## 3 来庁する団体の概要

### (1) 愛知県ふぐ縄組合連合会

ふぐはえ縄漁業者が組織する団体で、操業の調整やトラフグ放流など栽培漁業に取り組むとともに、観光業界と連携して日間賀島や篠島に水揚げされるトラフグのブランド化の取組を進めている。

### (2) 日間賀島漁業協同組合

日間賀島の漁業者 394 人を正組合員とする漁業協同組合で、購買、指導事業に取り組んでおり、所属している漁業者は、ふぐはえ縄漁業のほか、底びき網漁業や船びき網漁業などを営んでいる。

## 4 トラフグの漁獲を安定させる取組

### (1) 栽培漁業の取組

トラフグ資源を増やすため、県の栽培漁業センター（田原市）では、2005 年からトラフグの種苗生産を開始し、今年度は 18 万尾を生産しています。種苗は、6～7 月に全長約 35～45mm に成長してから出荷され、漁業者により伊勢湾や三河湾の浅海域で放流されます。伊勢湾や三河湾は、トラフグの種苗放流効果が極めて高いことがわかっており、放流種苗のうち 10～20%が成長して、漁獲されています。

### (2) 資源管理型漁業の推進

水産資源を持続的かつ効率的に利用していくため、県では資源管理型漁業の推進に取り組んでおり、なかでも、ふぐはえ縄漁業では早くから資源管理の取組が導入されており、漁業者は次のことに取り組んでいます。

- ・小型魚の採捕規制：700g 未満の魚は獲らない
- ・漁具の規制：はえ縄の針の数を自主規制（600 本/縄）
- ・その他：出漁日と操業時間の制限、操業海域の協議 等